

吾妻神社の由来

今からおよそ1800年前、第12代景行天皇の皇子日本武尊は、東国の蝦夷を討つため舟で房州に渡る際、海が大いに荒れた。

尊の後弟橘姫は、竜神の怒りを静めるため、荒れ狂う海の中に身を投じた。暴風雨は収まり、尊は無事房州にたどりつくことができた。

東国を平定した尊は、帰路足柄峠から、こよろぎに立つ白浪を見下ろして、姫の哀れを思い、恋しさの余り、「あづまはや」と叫んだ。

「あづまはや」とは、「ああ恋しき我が妻よ」ということである。これから後、**東国を「あづま」というようになった。**

弟橘姫は前川の生まれという伝説もある。姫の小袖を祀る吾妻神社は、海の安泰を祈る社として毎年7月16日は地元の参詣が絶えない。

(吾妻神社石碑より)

